

第98回全国高等学校野球選手権大会 派遣報告

南支部 福原昌宏

この度、第98回全国高等学校野球選手権に派遣審判委員として参加させて頂きました。まずは、貴重な機会を与えていただいた関係者の皆様に深く感謝致します。

今回の経験で得たことや感じたことを共有させて頂き、少しでも審判委員として高校野球に携わる方々のお役に立てればと思い、ここに報告させて頂きます。

はじめに

○中沢佐伯記念野球会館での打ち合わせ

今回全国から派遣された8名と、今回から審判委員として新たに委嘱された2名が対象の打ち合わせが行われ、各自自己紹介の後に日野副委員長、橘審判幹事から審判委員確認事項について説明を頂きました。

確認事項の説明において、大きな声と明確なジェスチャーで球場全体にはっきりと示す心意気が必要とのお話がありました。際どいプレーにはそのプレーにふさわしいジェスチャーということで自然にパンチアウトが出たのならそれもOKとのことでした（右足が浮いてしまうほどのアクションは×）。ただし、派手なジェスチャーばかり気にして基本がおろそかになるのでは本末転倒ですので注意が必要です。

○審判委員全体会議

自己紹介や注意事項の確認の後、各氏より激励を込めたお言葉を頂きました。

・赤井技術顧問より

春の選抜は秋の大会を終えての出場だが、夏はそのまま来る。県大会でOKとしてきたものは、それを引き継ぐのだから県の考えを尊重する。したがって、いきなり反則投球は基本的にはなし。注意やクー一同士で確認後に対応すること。

・木嶋技術顧問より

夏は仕上げの大会。自分を信じて、気を引き締めて取り組んで欲しい。

・杉中技術顧問より

自信を持って謙虚な気持ちで取り組んでほしい。万が一体調不良の場合には高校生に迷惑をかけないためにも、勇気を持って言ってほしい。

・日野副委員長より

キャッチフレーズは「かきくけこ」。

か：感謝の気持ちを持って

き：気配りを忘れずに

く：クール（冷静）に

け：謙虚に

こ：高校野球は心が大事

チームアンパイアー丸となって頑張ろう！

○開会式前日の確認について

甲子園球場近くの津門中央公園野球場にて、各塁の動きや立ち位置などを確認しました。

夏の選手権大会では、観客の服装やうちわなど白いものが多いため、飛球が上がった場合には絶対に目を切ってはいけないということで、それをイメージした練習も行いました。

また、二塁塁審が内野内に入る場合、手引の通り本塁と投手板を囲む円の端を結んだ位置で走路より1歩前に出た所で二塁手側に立つことを確認し、盗塁判定の際は4歩で入る練習を行いました。2歩で入ると言われる場合もありますが、高校生の場合は送球が一塁側に逸れることが多いため、この位置にしているということです。また、走者一塁でバントが濃厚な場面では野手の邪魔にならないように遊撃手側に位置することも良いのではないかとのことでした。

担当試合の感想および学んだこと

○1 試合目：大会2日目第1試合 いなべ総合対鶴岡東（二塁塁審）

初めての甲子園での試合です。やはり今まで審判をしてきた球場とは違い、立ち位置がの感覚がなかなか掴めませんでした。特に内野内に位置したときの感覚が全く異なり違和感だらけでしたが、クルーの方々がよく目を合わせてくれ、サインの交換もスムーズに出来たので、打球が飛んだ際も周りを確認しながら対応することが出来ました。

試合後の反省会では、盗塁の判定をする際にハンズオンニーの姿勢が取れていないとご指摘を頂きました。止まってはいるものの、しっかり決めて見ることが出来ないということで、これは球審の際の本塁クロスプレーを見るときにも大事なことでしっかりと癖を付けるようにとご指導頂きました。

この試合では、2回まで非常に時間の掛かる試合展開であり、4回からボール回しをやめさせました。これまで私は5回終了時に1時間経過した場合のみボール回しをやめさせていましたが、時間がかかっている場合には5回を待たずに判断することも必要であるということであり、レギュラー審判委員の方々も投手であろうとも定位置へは駆け足で戻るように声を掛けていました。こう言ったところを取り入れていかなければならないと感じました。

○2 試合目：大会4日目第3試合 星陵対市立和歌山（三塁塁審）

1回裏市立和歌山の攻撃。1死一、二塁で4番の強烈なゴロの打球が三塁線を襲い、三塁ベースを過ぎた時点でフェアのジェスチャーを出しましたが、その直後、三塁手のグラブに打球が当たりコースが変わって私の左足に直撃してしまいました。その瞬間、頭が真っ白になり、パニックに陥ってしまいました。ボールは私の足元にあり、当然二塁走者は本塁へ帰れず、三塁側アルプスの市立和歌山の応援団から凄まじい罵声が私に向けられました。まだ初回で試合の流れを掴もうとしているところでの出

来事であり、申し訳ないことをしてしまったという気持ちでいっぱいになり、平常心を保てなくなってしまいました。クルーの方々から「切り替えて！」と何度も声を掛けて頂きましたが、気持ちは落ち着かず他のことはあまり覚えていません。

試合後に赤井技術顧問から「あれは不可抗力で避けられない。」と言うお言葉を頂き、少し気が楽になりましたが、これまで打球に当たると言う経験はなく、まさか甲子園で当たるとは思いもよりませんでした。これも貴重な経験ということで、今後の糧にしていきたいと思います。

○3試合目：大会7日目第1試合 木更津総合対唐津商業（一塁塁審）

3試合目の経験となり、少し落ち着いて試合に望むことが出来ました。両投手ともテンポ・コントロールが良く、スムーズな試合展開で1時間31分で終わりました。

唐津商業の投手が投手板を踏んだまま汗を拭ったり腕を回すなどしたため、球審から注意を受けていましたが、私はそれに気付けなかったため注意することが出来ませんでした。甲子園でレギュラー審判委員として活躍されている方の視野の広さを再認識しました。

今大会を通じて学んだこと

○テンポの良いスムーズな試合運営や正しい野球をしてもらうためにレギュラー審判委員の方々が取り組んでいることを報告いたします。県大会においても取り組む必要があるものと思いますのでご確認ください。

- ・初戦の1回、2回はチームの好きなようにさせるべきだが、試合のテンポが悪く時間が掛かっているような場合には、早い回でもボール回しをやめさせる、早く投手板に着くように促す、打者席に早く入るように次打者に声を掛けながら迎えに行く、サインを早く出すように捕手へ声をかけるなどゲームをコントロールする必要がある。基本的に球審が良いテンポを作るが、球審だけではなくクルー全員で組みまねばならないし、そのような声をかけるからには審判委員自らが常に駆け足で行動するなどキビキビとした姿勢を見せることが絶対条件。審判委員はグラウンド内で3歩以上歩いてはならない。（2回戦以降は初回からガンガン声を掛けてスムーズなテンポを作る）
- ・例えば内野手から投手へ早く返球するように選手に声を掛けたりする際は、動作を付けずに言葉だけで促すように心掛ける。動作を付けると命令しているように見えるのでそのような仕草はしないこと。
- ・タイムを掛けずに投手のところへ捕手を行かせるのは甲子園であみだした方法。いかに時間を短縮するか工夫しているが、これをどこでもやってほしいというわけではない。また、捕手や野手のひとり歩きはあまりに頻繁なようであれば行かせないということも必要かと思う。そもそも守備と攻撃のタイムを3回に制限したのは、タイムの回数が違いすぎるのは不公平だという考え方からであり、その趣旨からすればひとり歩きも自由に許すべきではないと考える。

- ・次打者席にバットボーイ等のダミーが入っている場合があるが、これは許してはならない。投手や捕手が次打者で準備に戸惑っている場合には入るのが多少遅れても仕方がないので、次打者席に入る必要がない選手は入れないこと。(いくつかのチームが注意されていました)
- ・エルボーガードはきちんと装着させ、ゴムひもがだら一とならないようにすること(球審が直してあげてもよい)。正規に取り付けられておらずゴムひもに当たった場合は死球ではなくボールと判定すべきだが、そもそもそのようなことが起こらないようにきちんと装着させること。
- ・反則投球や守備妨害など、審判には分かっても観客には分からないことが多々ある。バックスクリーンにも表示はされるが、放送も使って観客にわかりやすい運営をすることが必要。
- ・試合開始・終了時の礼を審判委員も含めて合わせる。礼はこの際に行っているため、ほかの場面での礼は不要。(5回整備時にグラウンドを出入りする際に礼をしている審判委員を見かけるがその礼も不要)

○大会を通じて選手やチームに対して指導や注意を受ける場面がありました。参考に報告させていただきますので、正しい野球ができるように、練習試合等で各校へお伝えいただければと思います。また、先生方にもご確認頂き、普段の練習から気を付けていただければ幸いです。

- ・走者二塁で遊撃手があからさまに二塁走者の前に視界を塞ぐように立ち、注意された選手がいました。試合後も当該の学校および当該県の理事・審判部長が「このようなことをやる者に高校野球をやる資格はない」と厳しく注意されています。このようなことをするのはごく一部の選手だと思いますが、真似をしないように注意してください。
- ・グラブのひもが長い選手がおり、注意されています。普段から先生方には注意を払って頂き、試合中に審判委員から指摘を受けないようにしてください。
- ・黒いエルボーガードのゴム部分に白い文字でメッセージを書いていた選手がおり、エルボーガードを没収されてます。テレビを見ていた視聴者から指摘があったようです。このようなことがないように注意してください。
- ・ホームランの時などうれしい気持ちはわかりますが、新潟メソッドにもある通り、相手を尊重する気持ちは大切です。派手なガッツポーズやアクションで注意を受ける場面がありましたので気を付けてください。(これも視聴者から指摘があったようです)
- ・ボール回しの最後に投手へ近付いて返球したり、定位置へ戻るのが遅かったり、捕手や内野手からのサインが長かったりといった試合のテンポを悪くするような動きには常に審判委員から声が掛けられます。自分のプレーに集中するために、普段からきびきびと行動するようにしてください。
- ・本塁で送球を待つ捕手の足の位置がまだベースの左側にあることが多いので、正し

い位置で送球を待つように指導してください。

- ・ロジンに触れた後、指先に息を吹きかける投手が見受けられますが、ルール上、寒いときなど特別な場合を除いて許されていませんので注意してください。
- ・走者なしでセットポジションから投球する場合に、きちんと止まっていない投手が多く見受けられ注意を受けています。正しい投球動作を身につけてください。ただし、攻守交代時などの投球練習の際には注意せず、好きなように投げさせてあげてください。
- ・投手板を踏んだまま方を回したり汗を拭ったりする投手が見受けられますが、走者がいれば正式にはボークです。打者や走者に対して不利がなければ基本的には注意に留めていますが、注意を受けても何度も繰り返すようであればボークを宣告されます。このような動作をする場合には、投手板を外して行うように癖を付ける必要があると思います。
- ・次打者席にバットボーイ等がダミーで入っている場合がありますが、これは何の意味も持たない行為ですのでやめさせてください。投手や捕手が準備に戸惑っている場合には次打者席に入るのが多少遅れても仕方ありません。(いくつかのチームが注意されていました)
- ・際どい投球に対して、ボールと判定された際に、長時間ミットを残す捕手が見受けられました。これは審判に対する侮辱行為ですのでやめさせましょう。
- ・キャッチャーズボックスから大きくはみ出して構える捕手が見受けられますが、基本的には中にいなければなりません。はみ出しても半分程度は中に納まるように指導していく必要があります。
- ・打者が装着する手首保護のバンテージは親指に通さずに使用してもかまいませんが、ヒラヒラしないように装着させてください。

おわりに

今回の宿舎は日本高等学校野球連盟のある中沢佐伯記念野球会館でしたが、期間を通して赤井技術顧問や関東地区のレギュラー審判委員の方々、関西地区のレギュラー審判委員である大槻氏と生活を共にし、夕食後は全員でミーティングを行い、その日の反省や次の日に生かすこと、技術的なことや審判委員として取り組むべきことなど、様々なことを話し合い、学ぶことができました。

審判の技術などは基本的に違いませんが、高校野球に対する姿勢や生徒への接し方、テンポの良い試合展開にするための取り組みなど、県大会でも取り組むべきことがたくさんありました。新潟県の高校が甲子園に出場し、良い成績を収めるためには、審判委員もレベルアップし、甲子園でレギュラー審判委員として活躍されているの方々と同じように情熱をもって取り組む必要があると思います。

赤井技術顧問からは最終日に「高校野球において求められる審判像とは何か。信頼される審判委員とはどういうことか、今回の経験から地元に戻って求められる審判像を考

えてほしい。連盟やチーム、観客から信頼されるために何をすべきか、技術的なことだけでなく考え方についても長い年月をかけて考え、自分で答えを導き出してほしい。」との言葉を頂きました。直ぐに答えが出せるようなことではありませんが、今回の貴重な経験を胸に、謙虚な気持ちを忘れず、携われることへ感謝しながら、答えを導くことができるように精進したいと思います。

また、「仲間に伝える際に『こうしろ、ああしろ』という言い方は問題があり、何様だということになる。『こうしてみてもどうか。こんな考え方もあるのではないか』といった伝え方でなければならない」と教わりました。こういった点についても十分注意して、今回の経験を皆さんにお伝えしていきたいと思います。

最後に、今回お世話になりました関係者の皆様に感謝申し上げ、第98回全国高等学校野球選手権大会の派遣報告とさせていただきます。本当にありがとうございました。

以上